

(株) タカコ (B)

——資金分析・経営分析——

5

会社の沿革

小児・子供服の輸入品の小売りを営む株式会社タカコは昭和52年6月11日、現社長の荒孝子氏ほかの発起人により、渋谷区神宮前3丁目に設立された。当初の資本金は20,000,000円であった。(株)タカコの店は、国鉄原宿駅より南に下った通称、明治通りの一角に位置していた。小規模ながらも明るい、清楚な感じの飾りつけで、道ゆく人びとが気軽に入って買い物のできる感じであった。社長の荒孝子氏はK大学のマーケティング関係のゼミを昭和46年卒業した。その後同じ大学卒業で有名な広告会社に勤める荒氏と結婚したが、しばらくの間、2人には子供が恵まれなかった。そのため、孝子氏は大学で聞きかじったマーケティングを実践してみようと思いついた。すぐに夫君の荒氏に相談したところ快諾を得たので、自分が常ひごろから関心のあった衣料品の販売を手懸けようと心に決め、出店の計画にとりかかった。売る商品はベビー服や子供服を中心にしようとした。百貨店やその他の専門店など、どこにでもあるような品物でなく、特色のある差別化された品揃えをと心に決めた。学生時代にはじめて海外旅行をし、自分の心の中に強烈に焼きついているヨーロッパがほうふつとしてよみ返ってきた。ヨーロッパから仕入れることにしようと決めた。

10

15

20

会社設立後まもなく、孝子氏は単身で仕入れのため、ヨーロッパの見本市に飛んだ。子供用品の仕入れなど全く初めてであり、このために各方面に教を請い、また相談のしてもらった。

店舗はすぐ見つかった。昭和51年も押し詰まった頃、原宿のはずれで道にはさまれた狭隘の地にレンガを表壁にあしらった5階建てのビルが完成し、その1階に貸店舗が3つできたのだという。そのひとつに面積約6坪足らずで道の両側から出入できる店舗が候補にあがった。貸主はある不動産会社であった。敷金12,000,000円、賃貸料は毎月155,000円ということであった。孝子氏はすぐに契約した。店の間口は3m、奥行きは6m強ほどであったから、棚やレジ、試着の場所などのレイアウトには苦心をした。しかし何ぶんにも手狭なため、商品在庫すべてを店に置くことはできず、サイズや色違いの品物は近くの六本木に住む叔母のマンションの一角に倉庫替わりの部屋をひとつ賃借することにした。

25

30

このケースは(株)タカコと大井会計事務所との御好意により、慶應義塾大学助教授柴田典男が作成した。ケースは経営管理に関する適切なもしくは不適切な処理を例示するものではない。

(1982年6月作成)

35